様式第１号

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 28 年度
１次評価日（主幹等）	29 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	29 年 3 月 31 日

1 事業名	調査・活用事業	コード	111105

2 担当部課	部等	産業振興部	課等	ブランド推進室	作成者	小林　隆

3 事業概要				
目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
	政　策	文化・スポーツの振興	施　策	文化・芸術の振興
予算科目		調査・活用事業費	業務委託	なし（直営）
実施義務		なし（選択的事業）	国県補助	なし
根拠法令		なし		

●事業の内容（DO）

4 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		製糸業の歴史の継承や製糸関連資料等の散逸を防ぐための調査・研究を実施する。 養蚕・製糸業を軸とした学習活動の実施
目的	対象者	市民及び来館者
	意　図	蚕糸関連資料の調査・研究及び学習活動

5 事業の実施内容

＊28年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容

・フランス式繰糸機（復元機）の実演：計13回
・小中学校との連携による学習支援：計79回
・カイコふれあいデーの実施：計10回
・養蚕体験　6月～10月　カイコふれあいルームにて別紙
・シルクサマーセミナーの実施：8月9日
・収蔵品・寄贈品、そのた関連資料の整理

前年度の課題への対応	・遠方の出前講座、出前授業依頼の対応策の検討（来館し、博物館での対応とした） ・来館者増加による人員不足に対応するため、資料整理等は賃金作業員により対応した。

6 指標の達成状況

＊活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度

区　分	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 活動指標（指標名）	出前講座（ワークショップ含む）の開催日数			単位　日
実績値	150	130	103	
＊指標の説明	出前講座（ワークショップ含む）の実施日数			
② 成果指標（指標名）	出前講座（ワークショップ含む）の開催日数			単位　日
目標値	150	150	150	150
実績値	150	130	103	
達成度	100.0%	86.7%	68.7%	
＊指標の説明	出前講座（ワークショップ含む）の開催日数			
＊目標値の設定方法の説明	過去3年間の最大値			

7 ア）コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

補助金負担金名	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 直接事業費	227,271	271,619	315,013	378,000
経常経費	227,271	271,619	315,013	378,000
臨時的経費				
＊臨時的経費の説明				

補助金負担金名	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
② 人件費	3,360,000	2,800,000	2,800,000	2,800,000
正規職員の人数（人）	0.42	0.35	0.35	0.35
③ 合計コスト（①＋②）	3,587,271	3,071,619	3,115,013	3,178,000
前年度比		85.6%	101.4%	102.0%
財源内訳　一般財源	3,587,271	3,071,619	3,115,013	3,178,000
財源内訳　特定財源				
＊特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	23,915	23,628	30,243	
前年度比		98.8%	128.0%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ）補助金負担金の状況

［単位：件、円、％］

補助金負担金名		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア）の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

＊行が足りない場合は追加してください

●事業の評価（CHECK）

8 妥当性評価

＊妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。　**妥当性　高い**

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

＊有効性＝成果指標（項目7／住民の満足度）は向上しているか。　**有効性　標準**

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。　成果指標の実績値　前年度比　79.2%		0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。　成果指標の目標値　達成度　68.7%		0

●改善の内容（ACTION）

10 具体的な課題と改善

課題	（少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること） ・蚕具類、書籍等の資料の寄贈が増えており、資料整理が追いついていない状況である。 寄贈資料が増えていることから、収蔵庫の増設等の検討が必要となっている。 市外等遠方の出前講座、出前授業依頼の対応による人員不足
改善方法	（上記の課題をふまえて29年度以降に実施する、具体的な改善の内容） ・資料整理については、短期間ではあるが作業員を雇用し対応 ・遠方の出前講座、出前授業については、できる限り博物館へ来館してもらい対応する。
改善開始時期	平成29年4月～

●次年度の計画（PLAN）

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による29年度の優先度 *H27年度施策評価表より転記すること	A